

努力事項解説 その5～①～ (小学校音楽)

学校や児童の実態等に応じて、4つの評価の観点を基に題材の評価規準及び指導と評価の計画を作成し、多面的に学習状況を把握する。

～①～ 第2観点「音楽表現の創意工夫を考える」



「音楽的な感受や表現の工夫」が「音楽表現の創意工夫」になったけれど、具体的にはどのように変わったのかしら？

評価の観点が次のように変わりました。

評価の観点とその趣旨（現行）

観点	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
趣旨	音楽に親しみ、音や音楽に対する関心をもち、音楽表現や鑑賞の学習に自ら取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもっている。	音楽表現をするための基礎的な技能を身に付け、歌ったり、楽器を演奏したり、音楽をつくったりしている。	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、楽曲の特徴や演奏のよさなどを考え、味わって聴いている。
三要素	主体的に学習に取り組む態度	思考力・判断力・表現力等	基礎的・基本的な知識・技能	
領域	A 表現			B 鑑賞
	B 鑑賞			B 鑑賞



評価の観点とその趣旨（旧）

観点	音楽への関心・意欲・態度	音楽的な感受や表現の工夫	表現の技能	鑑賞の能力
趣旨	音楽に親しみ、音楽を進んで表現し、鑑賞しようとする。	音楽のよさや美しさを感じ取り、それらを音楽活動の中で創意工夫し、生かしている。	音楽を表現するための基礎的な技能を身に付けている。	音楽を楽しく聴取、鑑賞し、そのよさや美しさを味わう。
領域	A 表現			B 鑑賞
	B 鑑賞			B 鑑賞

第2観点「音楽的な感受や表現の工夫」(旧)と「音楽表現の創意工夫」(新)は、大きく変わりました！

「音楽的な感受や表現の工夫」は

- ① 音楽のよさや美しさを感じ取り、
- ② それらを音楽活動の中で創意工夫し、生かしている。

状況を評価します。

「音楽表現の創意工夫」は

- ① 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、
- ② 音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもっている。

状況を評価します。

- ① 「付点八分音符と十六分音符の組み合わせのリズム」を聴いて、「弾んでスキップしたくなるようなリズムで楽しそうだな」とそのよさを感じ取り、

- ② 「弾んだリズムの感じ」がはっきり分かるように、気を付けて歌ったり、演奏したり、音楽をつくったりしている。

実際に歌ったり、演奏したり、音楽をつくっている状態を評価します。

- ① 「付点八分音符と十六分音符の組み合わせのリズム」を聴き取り、「弾んでスキップしたくなるようなリズムで楽しそうだな」と感じ取りながら

- ② 「弾んだリズムの感じがはっきりわかるように、気を付けて」歌ったり、演奏したり、音楽をつくったりしようという思いや意図をもっている。

思いや意図を、言葉など(体の動き、絵や図、音なども含む)で表したことを評価します。(実際に歌ったり、演奏したり、音楽をつくっている状況を評価するものではありません。)

実際に歌ったり、演奏したり、音楽をつくっている状況を評価するのは、第3観点「音楽表現の技能」です。意図どおりに表現するには、技能(音楽表現の技能)が必要だからです。





次回は、『第4観点「鑑賞の能力」』について考えてみます。
11月8日（金）頃アップする予定です。